

# 福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業について

福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業実行委員会

## (1) 共働のきっかけ・必要性

### ●「共働」の必要性

以下の課題を解決するためには、市民目線と発想、民間マインドの事業展開、幅広い分野からの参加とコンセンサスが必要であるが、NPO 単独では実現困難であり、官民共働という手法によって効果的な事業実施が可能となる。

### ●事業提案の理由

NPO の 10 年間の活動経験から、次の課題が顕在化した。

- ①市民目線の案内表示がなく回遊しにくい
- ②市民が誇りに思うランドマークになっていない
- ③外国人がその価値に気付かず素通りする
- ④若い世代の興味、関心が低い
- ⑤市の関係窓口が多岐にわたる

### ●市担当課の考え

上記の課題を解決することは、歴史・文化を活かした観光を促進するうえでも必要であり、セントラルパーク構想や福岡城跡整備計画等にとっても有益であると考えます。



### イギリスの例

壁しかない遺跡だが、親しみやすい絵を用いて、一般の外国人観光客にも往時の様子が理解できるよう工夫されている。

## (2) 事業目的

福岡市が経済・産業だけでなく観光においても九州・アジアの中心として発展していくために、国指定史跡である福岡城、鴻臚館を活かした観光都市戦略、ランドマーク作りによって「おもてなし都市・福岡」の実現を目指す。

## (3) 事業目標

### ① 市民協力・市民目線によって市民が誇れるランドマークをつくる

市民目線を生かしたランドマークづくりを進め、「連れて行く所がない」を返上する。

### ② 国際観光客が感激する観光地としての魅力アップを行う

外国人観光客が理解し感激できる案内標識を作成、イベント開催、ガイドのスキルアップと多言語対応で素通りする外国人観光客を引き留める。日本人も見直す（黒船効果）。

### ③ 若者・次世代を主役に、郷土歴史遺産を学び伝承する習慣をつくる

小、中学生から大学生まで若者が、鴻臚館、福岡城を中心とした郷土の歴史を学び伝承し、「こんなすごいものを知らなかった」をなくす。

#### (4) 事業実施内容 \*目標のあとに実施内容の概略と総括

##### ① 市民協力・市民目線によって市民が誇れるランドマークをつくる

a) 「市民フォーラム」を開催し、市民の啓発、参加のきっかけとなる場をつくる。

【市民フォーラム】(共働提案事業として通算 5 回目)

平成 30 年 3 月 22 日(木) 13:30~16:30、中央市民センターホールで開催。テーマは「古典からみた歴史景観 ~鴻臚館・福岡城下の昔と今 そして未来~」。講師には、奈良大学上野誠教授、福岡市博物館高山英朗学芸員を迎えた。年度末が迫る平日の開催にもかかわらず、過去の市民フォーラムに匹敵する 247 名が参加した。古典からみた歴史景観という切り口で、往時を偲びながら、鴻臚館・福岡城に対する市民の関心を高める講演となった。



参加者を巻き込む内容



講師によるトーク

「福岡城・鴻臚館についての知識が深まった」「分かりやすい内容だった」「講師の話がおもしろかった」など参加者アンケートの 91%の感想が「とても良かった」「良かった」に分類された。また、当実行委員会の 3 年間の事業報告を石井実行委員長が行い、活動の成果をアピールする良い機会ともなった。

b) ガイドのスキルアップ

◎ストーリーツアー

テーマ性、ストーリー性のある福岡城ガイドを行い、より魅力ある観光ガイドのあり方を探る。

2018 年 1~3 月実施。実施時間はどの回も 10 時~12 時の 2 時間。

① 2 月 18 日(日) テーマ: 二の丸・本丸エリアの建造物をさぐる 21 名参加

② 3 月 4 日(日) テーマ: 石垣と水 石垣の歴史・構造と井戸の目的と役割 36 名参加

③ 3 月 18 日(日) テーマ: 発掘・修復の現場をめぐる西隅櫓、伝潮見櫓公開 36 名参加



石垣の構造



櫓修復現場

福岡城・鴻臚館の歴史などに関心がある方々が参加できるツアーを企画・開催した。3 回連続して参加する方もいた。好評の要因は、常日頃スキルアップに努めているガイドによる案内であること、一般には公開されることが少ない櫓などの建造物に実際入場できることがあげられる。「ガイド自身が福岡城をテーマに深く学ぶ習慣がついた」「日頃非公開の市の文化財を見学できた」など官民一体で実施するメリットが活かされ、深く学ぶ機会を提供できた。

◎ガイドスキルアップのためのツール作成

福岡城を訪れるインバウンド等をターゲットに紹介したい歴史資源やコースを実行委員会で検討したうえ、舞鶴エリア内におけるガイドのスキルアップ向上のためのツールとして絵画を作成していただき、ガイドツアーにて活用。



(絵画 3 2 点)

c)「福岡城整備基金」への協力。イベント開催の際のチラシ等に案内を入れるなど市民への協力を呼びかけた。

② 国際観光客が感激する観光地としての魅力アップを行う

a) QRコードを活用した多言語ガイドツールを作成・設置

実行委員会が検討した福岡城を訪れるインバウンド等をターゲットに紹介したい歴史資源やコースを活用し、QRコードを活用した多言語ガイドツールを作成・設置したことにより、来訪者のエリア内における回遊性の向上が期待される。

③ 若者・次世代を主役に、郷土歴史遺産を学び传承する習慣をつくる

【なつかしの遊び in 福岡城・鴻臚館】

平成 29 年 12 月 9 日（土）10 日（日）11：00～15：30 舞鶴公園西広場、三の丸スクエアで実施。九州産業大学・千教授、森准教授の指導の下、経済・商・経営など 6 学部 of 学生たちが自ら企画し、実施した授業の一環。学生の主体性、社会性をはぐくむきっかけとなった。また凧揚げ、折り紙などの遊びを通じて、来場した子どもたちと保護者に、福岡城・鴻臚館の存在や価値を認識させる好機を生み出した。城内でのお茶会はとくに往時の雰囲気を楽しむ特別な機会となった。

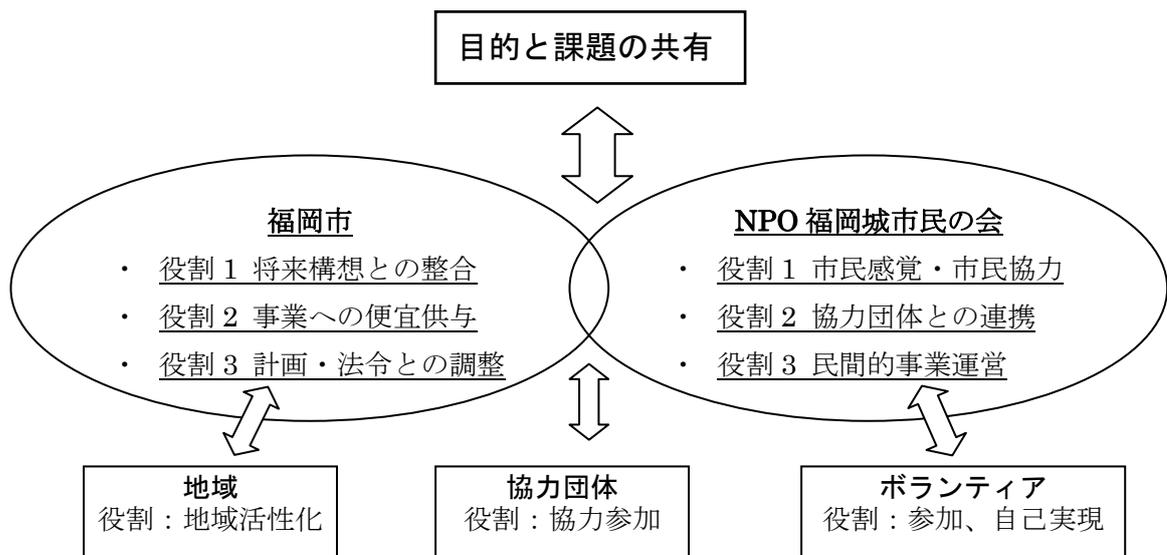


学生作成のちらし



遊びを通して学生自身の社会性も向上

(5) NPOと市の役割分担



## (6) 担当者の声・市民の声

### ○担当者の声

- ・当該事業を通して、NPO と行政の共働だけでなく、行政の関係部局や、民間企業との連携など共働のネットワークが広がった。
- ・行政と共働で行った様々なイベントや、それらを実施するための準備過程を通して、担当者のみならず、NPO 事務局員ともども、日頃の NPO の活動だけでは得られない経験をすることができた。

### ○市民の声

- ・福岡城・鴻臚館エリアの情報を深く知るきっかけになった。
- ・(ストーリーツアーは) わかりやすく楽しい。
- ・福岡城・鴻臚館に関する継続的な調査・研究・情報発信を期待する。
- ・今後も各種イベントを実施してほしい。
- ・(市民フォーラムは) 次回も開催を期待する。

## (7) 30年度への展開

### <共働事業終了>

当該事業を通して、市の関係各課（みどりのまち推進部、文化財活用部、観光コンベンション部）のネットワークが強化されたことにより、歴史資源を観光資源として活用する事業（当該事業におけるQRコードを活用した多言語ガイドツールを作成・設置、その他に乗馬体験や着物着付体験、フォトスポットの磨き上げ等）が進んでいる。平成30年度以降も当該実行委員会を通して築かれたネットワークを維持しながら、行政とNPOが協力し、舞鶴エリアへの集客向上等に努めていく。

また、NPO自身の活動としても、この3年間で実施した種々のイベントを更に発展させた形で行っていきえるよう努力していく。さらに今後、天神ビッグバンのオアシスとして福岡城・鴻臚館を含む舞鶴公園エリアが持つ潜在力を引き出すため、市役所、民間企業、NPO関係者、一般市民のつながりをいっそう強化していきたい。